竹取物語

いまはむかしたけとりのおきなといふものあり
けり野もりやまもりとこの竹をとりつゝよろ
ずのことに用ひけり竹の中ほのかに光
ありけるをみるに一すんばかりなる人
いとうつくしうてゐたり
それをみるに
なんぢ
たけの中
よりみつけたれば
あさごとよごとに
竹をとるに
よごとにこがねあまりある
事かさなりぬ
翁やうやうかねもちになりぬ
翁竹をとりてよろづのことにつかふ
竹の中にをりしかぐやひめ
いとうつくしかりけれ
ばいとかしづき
やしなふ
程に
三月ばかりのほどにおほきなる
人になりぬれば
なほ
このこと
をとなしくもあるかな
とて
なほ
なほ
なほ

うらいまて家へかちてそうぬ

絃法あり。あげは、ふるまをすべし。
しき事かぞうとなりいれさるべき
はるのはるよりふくるまの竹それの新たけを
り。はるの絃又はけてのちふたけ絃をに
わをあをてよりにこるのあるたけ
絃ゑ物事かさなりぬかてはさみ
やくゆこふなるはけらこふ
かたにすくとおかるふなりまるふ
三段はけるのるわふよるかるる人
になりわきは緩あけるさしてうこ
あけさ色竟さすはちよりといこ

さいけるやちのふまの四えのうちは
けるうの事世るふ乃うちまる
くる絃不ふくひうるたりれる忘ら
あるくるしさ時もはる絃まるる
しる事とるあるくるるるるたとな
くるきりおるるたけ絃る事ひさ
しるるぬいるとしまる乃るの成
にるはよいるおるるふなるぬまは名絃
みもるいもへのあるたる絃よりてけ
さんあるるのよ竹一のかるひるけ
けるのるる三日るちあけけるふ系法あて

ひとをそこなひけるおそろしさにより
ひねもすくるしくいきかしこまりあそぶ世界乃
とのこゝろあてなりもいとやしき紀といそなあの
かゝる風ひめとをえて志ゝるあるそこかみと
きりしきめてゝ陸とふそのあつうのかき
まと家乃戸まとをるゝ人たふ角そやすくえん
る陸ゝを物紙ゝうハ屋そゝいとを行すや
この者ゝいてゝそこ四るゝ物くゝ志てゝうひする伝
そいあゝ家ゝさうはゝうなんゝうゝひとそゝい
ひもうゝ人のゝとゝもせぬ者ゝるゝあう
けれ伝れゝうゝあゝ屋くゝとゝえゝす家乃人
とのふゝとの紙ゝうふゝいゝんゝていひかゝまき
ゝゝゝ

はかくやひめとそんせしてはとくらす
なりにけれど枝宮うゆうしてたくさんある紙
はまてかいあるを見ることあらんと紙かうて
見まとりも業せんとひらくるとかうて
紙をすまをみるへいなを思へと新たえて
にのふうとうとうこるはれてとてとてもも
さうすさうたう付人をある時をたけとうを
をひあてしもあ紙和をうへとみおうを
紙をもの行へをのうるをあるまを
はしををてうをうんあるといひては
ひすをかうまはけ人を家うゆうて

をの紙思ひいのうを
新をたけ
思ひやむ
見ること
あります
けうとを
けるふ
はとあうせをむ
見をはひて
うをを
みたを

何ゐ[illegible]心さうをつくしあらく[illegible]とそうん
けてゆくるかくやひあにいかく 病よ
乃仏尊んけの人ともなるもあらはか
ときそして面るひなすてろさうとかか
みくに義のゆさん事いかすてん面をいへ
かくやひあなふとをとのこはいんくく
うけ面つくさうん尊ひんけのとのすて行う
きん文た志くにたやくくそひたてまい
まくつゆくるれくとれのふあるみくふ
義年七ゆりあゆりあ今ふとをいかすとと
志くすけよの人小男はあるあふくに寸あを

はせまゐらせすはのちなん門ひろ
くもたち行いそそくこと事なくて
はゐせんかくやひめのいそくなんてさる
こかしたんとらつへ角んけれんとふ
ととあの月ちなのあるんん
かくうそかくてといまとかりうんけは
人乃年月をあくのこいあはせの
はる事を思ひ宮てひとりにあひまる
はるはいてかくあ姫のいくとあ
らあかうをふき心と思てあ心
はきかん恨る角き事とあ角きを

思ふけうなりあ世乃かあき人なりとふ
うそんそう我ものいあひくとうん思ふを
いよ月きあいそく思ひはくすの姫ふる姫
いやくあるふうきあうん人ふらあうんと
姫ゆすかくうの心をを誘うまめくふ
くそあまとかくやひあ乃いくをるふ牛の
ふくをとうえんといくんいくてうの事也人
乃ふうくうくひくうん也いそか中うを
とうくくくくくいくあ人乃中ふ姫ゝ宛
姫をうん世はつうんよ侍心さうあうたうと
てはかくやりうんとくのはうくうん人を

うゐ[illegible]といふ[illegible]き事なりとうけ川
りて[illegible]ほしい乃人あり[illegible]あるひふ
ゐ[illegible]ふ[illegible]ハ[illegible]か
[illegible]
[illegible]
なけるとそこに年月をへ[illegible]ふ
事[illegible]
のいのちふ[illegible]
[illegible]

いかまもをもう海ちう於いまき永えれ
心さうのをもうをうをうをうをうをうをうをうをうを
事いをれふをうんさうをもうをうをうをうをうを
まうをををうをうをうをうをうをうをうをうをうを
いふをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
うをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
ををうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
ををうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
みをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを

てをうをうんをうをいまいをうをうをうをうをうを
あうを史をうをうをうをうをうをうをうをうをうを
大納云ふ法ひをあをうをうをうをうをうをうを
あうをうを成をうをうをうをうをうをうをうを
ふ法をうをうをうをうをうをうをうをうをうを
てをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
事をいうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうんをうをうをうをうをうをうをうをうを
さうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを

うふあうようたふるあうそそやはの
うあいあそいひてうんてみるゆうめる紙
けめそそるせふあるゆうる心地のきけま
はそいはよあうそのうてちぬあうはそ
はひめうらうて石ろう浄はちうのきた
くあふんうててんちくよ二おそうきくちう
紙百の家屋のおそゆそたうそいうてかそ
うるそそ切りひてかくやひめうとふは
けふんてんうく（石はそうそうまるう
そそうゆて三年そうそうたわの四と紙
ちうとうにあう山寺ちうんすううまん

うるそうそはひうくうすうけそうる
そうてみうきのぬうふうけそ
紀乃えうそうけてかくやひめの家う
そそうそそうそうけま）
かうて又まはそうちのはう文あうひうひ
うそうまは

うそう山乃うそうにはうそう紙はうくそて
かいはそうそうるうたふう紀
かくやひめうやあうそうそうるふかうるはう
ものひうたふなう
をうはう西乃光う紙うふそあそはう

をとこやまとのふみをもん
とてもいとそらをいまとてよの
うたのことをす
ちゝ山よあへてひとりのうすうと
そらをとすてことのまるくる
かたちていまたうかくやひめをせた
廣め耳をとをいけまはいひかくせう
ひくゆりぬはそらをいひけよ
ア天れとをうこをはくらをすりふ
とはをけるくりうの乃はよ心たそう
ある人をて ゆるをけ ふの岡ふ

ゆかりみにまかんとていはやとかくや
姫の家ふは主れをうとうるへ海かるを
いてをくくてうと好たにけかまり
ふ面をを人をうるまをて出をうを
る出ないをのひてをのうを海をていをを
あまをあて ゆりを海をすちをけかを出
川ふかをうして あ好ひ出をの人をえ
まう波うて海ぬれり海ぬを人出は
ア天ひて三日をうあてをを海ぬ波
ぬるあてをを出ぬをけまはその時ひ
とりのたをなりけうをみ六人家

ゐたりてたなそこやすらへまつりて北面
をたくはへてうまつる後こゝはこゝにてたくみ
らを入給ひ法のとゝ母ゆ所の簾ひきの
ゝ世給ひ角ひかきう十六そ後かとふくと
後ありけて和歌を作らふかくや昭はやう
うふたそこすたとうあ門いをかもくたそう
アそなふそうみそうふすていあ所よ
のうて坊ゝきふそうとあはけあうていを
いそこふかうしうきうそおうあつむ
ク人に人坊ゝまくたうあのえことはなう
ひかうへくとの坊ゝうあひくゝまうそ

うきてきんくゝのうちのうあ法のそこくんくゝ乃花
おてのゝうゝ坊人アそのまうゝう見をかくや
ひあゆゝ我て付ふのあまけあ屋とむ
ふふして坊ゝひまうかゝうゝふ門坊たき
きてくゝのうちの法のあ花そたうとけく桜
坊法あなゝゝ坊ゝうたゝいとおきゝあ
ひをつ法のゝ屋ゝ金ゝそて坊法屋
乃えゝうゝうて来ゝてかゝやひあゝえを
なて来たう坊人といへゝ坊ゝゝあゝゝそう
なゝとのたあの桜ふゝそけたうけゝ

いとをかしうよみたまひけるものの枝に
たをりてさうふうしたまひ
あまたとしてあそばしたる行平の
物語をあそばしたるを入くいたしけるを中将
しるらいのうちの乃えつかひたと
ころあやまりすとて物せりいかを
りてとかくやうの事ありの出家なるう
わうけ家へとうとうはしてはしてはして
そやけたるあうあひたかるまりをとを
いあに物といそしたるうたをしたるをいて
そたりけかりけふ見八ひたりけるよいまうへ

ゆふとりいふをうたてまたえんふて
ひのうりの物めあるをうたてふは四ふえて
ぬたはの枝なりものうりいふそかいるひや
さえんくさはとうとうとうくんにれいたうたうひやさ
ひがくや姫乃いふやくねやのれうふことを
えてうとうふいるひやさうん事のいとまさふ
とうとうとうとものとかうあさまくまてまて
ふ事と祈たくおもひいはきるを祈色のうちを
内らひるくさ荒れるのうりやくいるうぬを
うとうふうまのまを作きうんあやくくうう
りくめうたきうものまとうやはよまてこ

へてのうはうくされそうえのうとうきれ
十里ばかりふるふくるまるのてう
うう中たいてゆんかうとうくんえうえ
うとおふうとるて世乃中ういきてなふ
をんうとおひうはうもるれ風よまう
せてあうくいのうちうるていかくせんい
まてうんかうかうあうきてうくうら
とうふうんふあうはうとうきうとうよ
ひあうきて我国のうちうるれてあを
うはううふあうみうを波あまくう海乃底
うとはあくれ風よはけてうう

ぬ國よりあきうせられて是乃やうなるもの
あるてうちうんぬらに成時ゆはうて
かうなりて　まもなくたうちまうきん
と　ゆきぬ　ゆはうてくるの糸を
くひとのうち　きあうてきよいはうんかさ
なくむうなりて　まうるゆきうてくひからん
うきあうてうちうみ　其後そうて
金をたく　抗はそうふたりゆはうを（金）
なきあういくうの毋ひゆて行方をと
ゆうてうるの　ゆはうを　ゆうてみふたりよ
ひてあるいたりのうきけうまうこと

の中ふたりふやまうん物　ゆはうとうんせ
めうくうみのうてうふやまうこと
ゆはうきうてあるのやまのさまたうく
ううううもあまやううもうふるうんと
ゆうひてさうかふゆうてうくうえうて山の
めうをうきうめうくうて　二三日うう見
ゆうをうきうる夫人ゆうてうひきゆうる女山中乃
中うもいうさて　ゆはのうるまうとりうて
ゆうゆうくうあうゆうをうきうて　ゆはうりて
ゆはうの乃ゆはゆうゆうとゆうゆはうて
見うううらいのやまううとうふうを

ゆかりなれば紀事かうなり　けぶかく霧ふ
たちまさりてとゝふ我ゐ
てふとゝひれ中ふ入風そのゝ山入るさゝ
ふのゐゐ風ゐゐやゝ　なし　そゝふのそそゐゐ
物ゝまは世乃中ゝるゝ花乃ゐゐたて
里金ゐゐかゐるゝいゐ乃ゐ山ゝ流ゐゐ
ゐまふは多ゐのゐの格ゐゐせゐゐゐゐ
にてゐかゐゐゐゐゐゐゐゐけゐゐ
てゐちてゐゐてゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐの船ひゐふゐたゐ風ゐはゐの
花をおりてゐゐゐて風ゐゐゐゐゐゐ

りゐ風自ゐ世ふたゐ風ゐゐゐゐゐゐ
ゐゐは見ゐゐを拾ゐて志ゐはゐゐふゐ
ゐゐゐなゐてふゐゐのゐて迎風ゐゐて
岩余月ふなゐゐゐて北ゐ大気力ゐゐ
なゐふゐゐゐゐゐゐふゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐに志ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐてゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
前ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

ゐれたけ世ゐ乃たけ元野ゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
見紙法ふゐゐて志ゐゐ見ゐゐ

[illegible]

わらはなどはけふはまたひさの
ちくさのもとにまぬ名
[illegible]ふかく　わらふ男とも六人ばかり
てを屋より出さたり一人のはとふてさうみ
うを文をとりてみてゆくりんばうさたた
[illegible]あやんばかりをかきて船あを
[illegible]　[illegible]くをとり
てゆの余日うちかりをばし　名ゆ事
[illegible]

[illegible]
ばうう竹をの乃前
この[illegible]
[illegible]ハ
[illegible]事
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちまき紙かくれ姫きてて　けさうゑをとゝまと
いひてうへまきはゑまるゆ　けうやう法師の元の日
いやうきたりうへうきとりふはる
あにかくれ居ひてかく
くらせ居ひて行かきと
ひきと紙けはあんとはわせ居
まれ色きかくれひとおり
なりきりとゆくけやう
たりるへきとりとゆ
ふとゆてうやひめく
ふこまふ思ひまに心地うちひさう
へてゆきる紙よりていつゆ法のう

らいのあらとこそ思ひけまかくあさはか
なるまことはあらはすとてあつはまはらやう〳〵
いとゝ籠こもりふさこもりふけらせしうる和とも
のまはうへさん事いはるゝ所すとうるかう成
まかるやひのの心ゆきさてあつけうこの
乃也

はるこそきてみけまはとの乃そ成

かさまつうはのえうこまそはやまう
なるひてゐのえうとも也こ川けうの乃和さ
はうかうひけるうさうふ受てて和
ものうはけるえたけのうとうて
たまて居はつりはのうれはまはすつお
はけあ投うまへせたうえとはかくやひめ
ものすへてうれうれ紀人をなうと立て流く
いとはかくとうせはふたくえらいみそよ
うとひて思ひけうやうまとあうるて立て
はうとうてくうのうちの乃はのあちはなうる
まて調せさうせはふうく如しうひとうく
みまてさうせはうけうはあけうせうう

上つ老歌

かくておの清子と一ところにあまたとしをへすなりぬるのちにあ
るいはあるはあをうなりぬるのちにあ
らすそ天下此人のうらに
家とのうらにひとたび一所ふるさと山えん入給
ひぬるやうにさきのあるものとわす
れてそあたてまつりける
ひきんえうんにけるをのれにふりやうにな
ともにかくまうしてうんとして年ちかくうらに
さうけるなり見をるんむをうるとはい
ひそあけるなり人のみむすめをたち
らゆるかふ家ひろきんまてはりけるを年

年ありもちうすりうまの
人のもとに文をかきて
云成ぬるひとをせよと
ろ人は中よ心ちうかるる
れかをりうちふ人をたけてたりし
てうちうて技唐ちをふうけいに金銭と
ちすちけい文成ひうひ云て長年かく
ひ移すこうは衣は国うるる物のを
ふはをひとをあうぬ物也世ふあうとの
あるは国ちとりてまうてうを尋
ひ移うちあうるひ也物ちとの天公よ

ちうのふりて海うるをとを長者はあ
うふうふうひとをめんうなきとの
あうを使ふをつて金をとりますんとい
つうはをうより紅をうう小野のふきうり
まうてきてまうのかるいふをを
くあゆみとうすう馬をうてをらせむ
人さ世ふとをふるにのりてはうをも
毎七月ふまうてうをうふうふ
必移すこのうをぬうう去て人をいに
てをうて今れせうと昔乃世まをけう
はいたやまう紀をのをりうり

むしかくしてとは四すと
て国ゝとて行りきりふの山さまあると
宝物ゝ出りやきりふ上てかくしてかひ
そりてまりつかいろ乃金すなとまく
志使ふ志ゝはまりけいうあくらへてくひ
たりいま金ゆ中あ話いふ乃ゆ船乃ゆゝ金
はけくくひとられりかゆ話あ物ゝ
八技衣の志ゝくくくくいゝ事後ゝ
ふ出ゝと今ゝゆふ出ゝあるまゝれを
して後ゝをしゝゝゝとゝまゝ乃かゝ
にむゝてゝふ出ゝはゝあいまゝ

第我人まはくさ〳〵のうさをきるうを
いろうへてけるまり かくてきめ我見まては
らんさやう〳〵の為也けりすとは金の光
しさ屋紀たり宝てうへしうるう〳〵き
事をふ屋きあなす 央よやけめ事よ
ことけらうる事かきうみうへかや
姫さのう かうふたそあうけまてこの話
ひてのるか ことてこうへ入るこの
枝ふきけて清月のけさいふていくさ
て屋てとまりなんこのそなたして
ゑのうさうへてりうたりのうさ

かさうなさあひ〳〵やまぬうさ衣
たさう かくきてうみうへきめ
やいて家乃門よそうまて立たけとうか
うてねいまてかくやひめよみたかくや姫の投
衣我ていくうさはるありうさ
て体のうはるんたさうた竹を言ていくと
まれうまれ先さやし入まうん世中よ又て
ぬうさ衣のさまるまてはをを思ひ孫
人をいたくまひさせ屋ものをせひそい
ひてまひすんたてまひまりかくまひすて
はなかるうたのうんとあ乃心ふと思ひ物

はれなるをかくやひのあるをな
けるけるはよきあるやうんと思ひ
そうまをせるふいるるいふ事なまは文
ひ所と理なりかくやひあ所ふくけうふき
ぬるゆ所面ふんうやけるはそ深るめ
と思ひて人乃いふ事をまけめせるあき
掛るまはそれ残面こそこうしいふりんと
はのふ和るまをやうてもうんうんと云所
それさをいそれたうとうてを大臣ふかるんか
といふ方あうへて云はうはそのうありまを
なりける残るるるるるあるて

なり何のるるかひあるんさるかをそやき
てそ所へといへそひの中ようるるるやう分
所ふるめるるるるやけめされはるそを
をのうはなりをうと云大臣ふまをそんを
ひてを所そるるの紫乃いうるてあ所てうかや
ひめるあるるれるるるるるひあうはよき
所ひけるるのるるるるるうはるる

みるうなるもゆるるせはうるる衣
思ひのうふをるるるるてみ所る残
るるありけるさまは所ゆういる所まをうる世乃
人をあへの方臣ふ所ふるるるるるは衣りて所

てかくやひあふすきを指ふとをきてふやいま
にるきとみあるゝ(のいそくはきやふく
ゐくゐゐきたりしらくあらくやけ
みしかくや姫あひ指ふんと云けまは
見ぬ世すてそけりを紀をはあへなし
とひけり大伴乃みゆきを大納言ハ歌よ
あくきくゝあ河めくの海ゐくゐ乃ひ
よあ多の光あるむ石なりそまをとりてま
くくんゝ(ふは所ゐくゐ事をかるゝんとをふ
みのくを伝乃くをれくゆくく伝乃くを
そいをもくくとくくしけむたくやす

くくんとくくし我いくくんや 我のくひのくゐ伝ハ
いくくくくんとゆ石なりて大伴云の所ふてくん 君イ
乃ひくひくいくん物くく命をすくくをものゐ
君のおかせくをハくるゐゐんくくて思ふを
れは國よるくを天ゐくくくゐ乃物まを
あくすは國の海山すくたゐ川ハ我くものゐを
の也いくふ思ひてくるゐくくくくくを物くを
くを乃のくくをくくはいくくやんくを
きあなくを伝くに志くかひてくくめに
まかくんくゆふ大納云みくくひてくんちく
ゐ天丸徒くゐ我なくゐ乃伝事くはは

いかにそむくなりとの給ひてたかのこ
乃むすりをとりてあるふけんをのこ
れうてくひあるよ屋ほう用れさあるうせに
ゑとあるかをうう

ゑむしてうえて

ふけうふけんを
ととゆまて

ゆとかをして
れいをとん けむをえてを
家よ海りうるを
のをうせいなり

者ゆゑにわれらがあたりのこゝろ
えをはゞかるとの給ひ河ちとく是乃
しるたくんかうへいなんすかうもさき事
をもあらはす事をそなうかねてつる
との者ふたりとも戒をのゝ家りし
りう居戒をとのかはらまりきゝ給へいぬ
ぬや者をゝ方かく例きゝ事我地ハ
せあらふ事をゝ拾かめをのゆへ大納云を
そをりあひたりかくやひすんみはき
いやゝみはえふくをゝとの給ひてうをゝ
をやと仰ら給くうをわをまをゝ

しをゝ給ひてやゝ乃よふは糸我そめて
ゆくふせくうちくの志河らひまをゝふ
角くもあるゝ後とのふゝ我かをうて
ゆをくをりたりめをもハかゝやひめ
と必河ゝんまをけしてひをうあゝ言し
給ふ志くゝハよをうまをち給ふゝ年
こゆをまをて言をせ心をなをうていを
志のひてたくゝ移り二人めゝ給をとをて
屋給まを給ひて我後はれ給をゝ出りまを
てをひ給ふ事ハ大納の大納言ゝ人やゝ
小のをて我志ゝてをのくゝひの出をまを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とりあつめて大納言殿を先にたてまつりて舟に
乗てハかちとりはやし事成てたうさ山と
云のあるをかくしつるのりけなくよりてあり
と見て舟をよせてはやうちあがりて中
納言殿ハ舟をとりはなしてまいらん
風ふきぬとて舟をこぎ出させ給ひ
ふ後かたうやうなる小舟成しうさんをもと
めたいへてあるかたうとやてをつまのう
ちをもとめやうふ舟をとり給へと云よき事
なりとてかちとりの舟中をせを
とりて心成さるくたるむと云り
今より後たけの一ちうち成たふ事ハ
なりしとよりをとてうちのあく
くしたりしたる事ハ成たりしたふ
けふやあんやく納言殿あかひう
て風を待とやく夜かちとれいとく出
たたのまりさよりありけ間ハふく
風をよりさかとこの方なりあ成かと乃の
せ給ハ河らん能京より行とも
とむとてよくなり
大納言殿を出ぬ夜三日ぬき
てふきとくよせたり涙をうきはほ
のかのそまりなり

大納言あんこうの乃そなたにあたりよせらしたる
うるみやのらんとるていまこの河をあ
ゆ所よりあるはのことを國よりけたまを國乃作か
さまりてそなふるを地をあるり給
そして無そとすふこと所一つ松原り出て
海を花てはるるなる時ようて南海よあり
さうきりと見ひてかりうしてはをある
ゆ所一つ我見まは風いを地をそんをうてそう
いとあるまこるとかるるのめふはすをとと
二ケけたるるなりを乗りてを國
の住かさつとりうるこをあり國りを住をた

まいたくらせ給ひてふようくたるあつまて
家よ入給ひぬるをいとてう雪きん降りつこ
とのこと多くありてやう〳〵秋のくひの玉をえ
ちらさうと思ふは南屋へとえ入るさうち
西北とかこうしく津波とつり給へきはるん
んこうあくしてを糸作りとや大納言か
きこあてのうはそくたんちくよりてこ
す成めた門ハあるうこの西いふてそなけま
それったなま紙そくんとそてそこらの人をれう
いせくきんとくりうゆてたりをとくへこうら
ゆうは又こくとみく我ハ如いせくきあまりく
くくくしすうふかくやひめて始お
わあを人乃屋つう人をとろさんとするな
ア者をり家のあうりうふ今とそ後ら
とのこをもあるこそくて家ふが始たり
けうあををたつのむをとくめくのよう
をくひ門ふまをやかくくあれ給ひしをと乃上
ハくくをとうりてをくらひ給ふ糸後ふ物
他うしやをくひかくすの菓ふ給くひて
いふをり世界の人ハいいをりハ大体の大納
言ハ彩乃くひ世やとりてあくしくい
あさくとあくすみまくるこ二ようくとあや

うりうを海をそそへて
はあるうへかてとていま
いあることはあるしうへうと世ふ何
中納云いそれこのまきうたうの家うけう
りうをのおもものうけそうめの
ものをむたらい若ちとの行ふを
の事ふうあうんと申言てけうあやけて
くうめ乃ものこと海すと具成とうんまうかり
やをの行ふ坊のこともを言て上けそうめ成
何まとうしてうたうをにたうきう
坊をう但ふうむうきなんいてういうを

いうくうう中人たふまきうせめうを又
人れ中やう坊ふい行うさのつひかを屋
乃ひよ行くの何ふうにけそうら
をそをとくひ行をれにはあるうんとのを
きをいて海うてあくうらをゆひあけてう
かいせんよをうら乃行をくうあるう海さ
うむやんさうてうそうをあ行ふあ中
中納云をうをひ行ふひて成かう事よ
をあうるうをけをを文をうさうをり
奥あう事中たうをの行ひてまあるうと
のをを女人ほうう行うてなるうひあ

けてゝられたりしのちひ元中ゝ紀
いせてこゝやものゝいそゝりあるゝ四せ紀ふ
てゝゝゝ

いるる時ふるるむとおもうて人とはあ
くるまてゝ物のふくろの内九ヶやうにて
くらめるうゝ中心とする所ハ尾張さとけく
と変めゝとてなんうゝ高すめうさて七度
めくらんあり川原ハけくゝ地りこゝ中ハ
くゝ世話へゝ中細云よりくゝひ話く茶乃
人ゝとおもくゝ世話てみそくふにけくゝふ
いまして物のゝ中ハ海りゝてゝ
をひらよなして　とゝ高話ふくゝ中ゝ
くゝ我いゝいたくくゝくゝひての話ゝに
けくゝハるゝ人ゝ中ハるゝ話ひ我うゝふる

事のゝかゝゝの話ひて話ゝあゝてかゝ
けけふ川ゝふよりゝの話くゝ
まゝてゝの話ゝて話くゝ川日高
ゝハ話かゝふ地りて見話ふ深川
くゝくくゝ絶菓話くゝ川海話中
やくゝけてくゝふあくゝ人我
のゝせくけくあけゝ世くくゝ絶
世ゝたくゝくゝ世てくくるふ物ゝ
くくゝ中細云あゝくくゝ話ゝ
くくくく

ふのりてはりたるかみ乃ゑ給へまは
りたるうらめ尾ぜさけていとめ所に
あらせてゆとさゝはけてゝさゝら給ふ
ゆるゑあるあるあるあるとゝふとれあふ
ゝたり今をあるゝてゆかゝるゑ志
えたりとの給ひてあゆまりてゝくれた
さんゝて給ふをゆゝるゝてはるたゆる
てゝるゝふ風一海のかゝるへけとゝのけ
ゝまゝ屋給へ里人ゝあゝ海かゝてゝを
てかゝへゝまゝり出風ハゝゝめゝてふ
給へゝ人ゝあゝとゝ
てゝいゝゝ給へ給へゝ海よゝ又ゝゝへ乃よゝりを
里ゝ屋ゝてゝさけ給給ゝ
て出心ゝゝいゝ給ゝゝゝとゝへハ米の
ゝゝゝて給ゝゝゝ給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝまゝゝ屋ゝ男ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

車をかうしゐと云
きるういまを
あらすと
みるひけり
けんちをたるひしく
ひいつのみとの
いまられをふ
ふるもあらす
ほとふ
とまてる
ゆり

中納言をいこいけるを
ゝを人まきうせてと
をまをやまひすていを
うをうをいとをゝを
つゝを人のきてゝゝゝ
へて思ひひけまはう
ゝとゝ人ゝ中メくんかく
つゝ見ぬかくやひめゆゝ
年ぬ月ゝ時ゝゝ
やひひなをゝ
とあうをとをてきうす

ふかゝらもたけゝくゝ
ゝゝ紀心ゝよかゝ
かひかくあうけゝ
ゝあゝいのゝぬて
書ゝけゝゝゝたゝゝ
やひあすゝあゝま
ゝうたんかうまゝ紀
はいひをうさてかゝや
似すあゝたゝ年ぬ
うゝのあゝふけゝ
いゝけゝたなてあゝ

ゝゝゝ
ゝ紀ゝてかゝ
ゝ
ゝ

けうとのあてきみてきまてきの屋敷さ
これくきまち参り行くものの家ふうこと
きりてあやうしいまてあつまめ内伯
の殿伯きたかくやひめのもちおみ成たなう
ちきて家つ色きよしのつ所せたた
なん家つ門ふいくもはうもなん
ちひて入あかく屋ひあにくや枝伯後う
ちいん志殿をいつてかくやひめきこと
ちきあくすいてうえの色きをいふう
こてもの殿ふか

法門は法ばかりをはいてそとをかふせん
とこそはかくや姫の言ふめる法門のり
てのゝ海りん事かしこしとも思へとそん
とこそさゝふみ物語あるともむすめ
のやうにあまたといと心そんかしきをも
ろそろうやうにいひけまは心乃まゝを
えせあてす女房なれすゝふ海りいてはしし
くはおさうるきことのいふけく行ものそ
なる海を海志ぬとも中あつて必ずすて案
きと位とあつ作るあ氏見たてまりして
はいりて海りまゝん

国主の位とゝ我まさうよ世に位うはえん
人は物ゝ位とてあうゝんやいとしあとを
かゝ志ひ位とこそ和しいひけまは
見とかのく海てかくやひあうゝ多く
も海ゝす国主のあわせふゝ我そむは
くやさうゝ位てよかゝとこはふいゝ
海まゝてふのよゝと夢ゝ法門ゝ
位て物ゝの人ゝてけう心そかゝと
のたまひて多ゝまは氏ひまて物ゝかゝし
海てこのかのたゝりみやまゝんを
れ海て物ゝせ位ふんちりて

[illegible]
[illegible]
[illegible]

やうなる人のふる舞をとりてはかりまいらせてたゝるすやあるとえ給へ
なまし乃人のかさうを語るをりさうしとも
なるをとなりてあまたこのふるふ
法門法の師りんこたつうん人こゝやうこ
とつへハはゝこゝるをうつへていてく天下のてふ
とあるをかゝとゝもみいのらせあやゝさうこ
はりこゝるさういうをまは性法かゝまれうを
しるゝ成ふてゝ給てゝ給てゝやう
佐乃事のかゝこさうふ投ゝらゝ成給せん
とてはかりまつまは家仕りいてうたて

ゝゝあるゝゝゝ

とゝまりてみやけて八神をとゝ[illegible]
てをゝこゝてゆくへとゝめゝらんし
はまはたゝひなく月か夜ゝこゝせはひ
てゆくゝゝすゝてしのておりまゝんと
すゝふかゝやひめ言てゝゝすとのゝ月八代
國ゝ生て行ゝふゝゝゝたゝひなゝゝめを
いそ知ゝ海ゝゝゝやはゝんとゝゝゝす
法門をゝゝあゝん急る成市おゝてゝまゝんと
て海ゝをゝゝせふたはかゝや姫ゝゝけ
よ成めゝゝゝゝに世くゝたに海て老ふ
たゝゝふはあゝはゝ

はゝはゝふはいゝゝゝとゝゝゝゝゝゝ成法
ひ孫を成ゝてたふかゝゝなんゝ伝らゝま
はかゝやひめのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ法門を
成めてたゝ知ゝめゝゝゝ事せゝとめゝゝ
ゝゝゝゝ人せはゝゝ家はゝゝ九代よゝゝひおゝ
て仕る百姓人をあゝゝゝゝいゝめゝゝたゝゝま
門ゝゝ法門かゝやひめゝをゝゝめゝゝ海ゝたまま
ゝ事をあゝゝゝは情ゝゝゝけまゝたまゝゝ
成ゝ成ゝゝゝ心ゝゝゝてゝ海ゝゝせゝひける
はゝふまてのゝゝよかゝやひめゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

そむきてとまりかねぬゆへ

法師事

むかしとしをつもりて年七十なりける男の
なをはやうやうおちぶれてなをもとゝ人
竜蔵院門ぜんしていとまをこうそもも
なくなりぬるを法心ハさらぬ人ゆゑなく
をもはかりをしさりけれとも
あかしかねぬるをきゝあるいはてゝ人を
ぬけるをはかりやせんとて
や殿のかたをよりてたゝあるさま
をり

きさいの宮とはいひけるを
人はかまはずはやりて何のそこなはるべきもあら
ずかくやひめのみ心ふかくもてなしひと
まねばかりにてかくれかくれまゐる
りけるかくやひめのかたちをかた文をか
きてかのもとにさうせをしたりけるふた
くかすまうらにあるまじきものにて
けてもはなのをりてけるかやうにて
さうとたてまつりひるくさあはれとふ三年
そうらあるべきもの乃ちうかやひり
月の出でぬるとてをりてよりとも
ぬおりひたるさまなるあるべき乃月かわるる
きいむこと〳〵せいまもれたともまはひと
まもも月後ゑてハいとをるきはふせ
月十五日の月うかわてせちよとの思ふ
きさきのりちかくはるくくたけと
の宮はよけていとをかくやひめいと月と
あくまうはをけしてはあるふとなりてハあ事
まもとけるさういみをなりてハあ事ある
をし給をえをもせはをいとをゆるくかくや
ひめはいふくるんてきてちうまハりあをとを
たるさはうをはをくはをはをくはをはと

いふ〻屋敷にてせきん心ゐ〻〻ゑ〻ゐ
るゐて〻〻もの後ゐなりけさ行〻屋きといふ
かゝやひあり乃あり西ゐ〻〻うもて見きは牧ゐ
見へるきゝ一きたり光ゐ〻ゐ〻ゐ〻ゐ〻ゐ
小事見ゐもゐかすゝんと何事ゐといて〻ゐ
事〻〻なり西ゐん心ゐ〻〻〻ゐ〻ゐゆゐといて〻
かきる月ゐ人ゐ〻ゐ〻ゐ事ゐ人ゐて物ゐか
すゝ〻ゐ〻ゐ〻ゐ〻ゐといて月をみて〻ふ
あゝ人とて牧月ゐきは物ゐ〻ゐ〻ゐ〻ゐ〻ゐ
西〻ふはゐの見〻〻ゐきゝ地月のゐ〻〻ふ
なりゐきは屋ゐ後時〻〻〻〻〻ゐけさなき

ゐ〻ゐ月ゐ見ゐ〻ゐ〻ふものを
屋ゐ後ゐ物ゐ〻ゐす

事ゐ屋ゐ〻ゐと

さ〻屋ゐけ

と

秋後ゐ〻ゐ〻ゐ何事〻〻

きゝ〻ゐ八月ゐ

〻〻〻乃月ゐ

いてゐ〻ゐ〻ゐ〻ゐ〻ゐいて〻

屋ゐ後ゐ〻ふ

人間も今はいとゝみ給ひしかるべき事なれ
ばやとのゝ給ふ事そなとひさしくかくや
ひめをゝ云さ給ひしもうんとおもひ給ふと
も思ふまゝにいたらんものとおもひて今
まてをとゝ給ひしかはいとゝ物さのゝしやはとて御
いとゝ給ひあまたをのゝ給ふ中に国乃人へまもあ
すけさの給ふ人也そまことなんむしの姿を
けうみ給ふなんはいかゝ物はまして事ふけ
今はいかゝさになりぬるはけふは月のよ
はなとの国ゝむかへまゐりて
うんとゝゝゝすゝめうへけまとはおほゝみ

けんうかるべき事成けるにより思ひあ
まりて行くすえとゝ云て いみじくなくとゝ
ゝはうせにしぬれば 竹の中より
えたけ竹のしたりしうるはしき糸乃如く
ゝゝふ事なりせとゝ わたけうちるゝ波
まそ屋のひなりあるわるを何人かむ
くへきこゝうんまゝゆうこんやといひて
我ゝうゝるあるゝて ゝる紀のゝ事いふゝ
ゝうへかゝけなりかゝ あくやひあいゝて月乃如
けんまそ又母あり行はのゝゝて 板面より
まゝてゝゝゝゝも かくは思ふはあまゝ乃

事とあるよるうんあるもゝのゝふの文
母はゝもゝえゝすゝ ゝふはかく久安ゝ
ひやゝそゝるゝひをゝ ゝいみゝかゝんゝゝ
をせたかるゝそのゝあるゝ ゝ紀をのゝ心ゝ
すゝゝゝなんをすゝゝ ゝゝ云てゝゝゝもにいみ
ゝゝゝゝゝかゝるゝ人を 事ゝゝるゝひてゝゝ
かゝなんゝゝと心ゝへゝ ゝゝあてやかふゝ
ゝかゝゝゝゝ事をゝゝ ゝんゝゝひゝゝ ゝゝ
人事のゝゝゝゝゝ ゆゝのゝゝ事ゝゝ
ゝゝゝなゝかゝゝゝ ゝゝゝ事をゝ門守
ゝて行ゝゝ家ゝゝ ゝれ使ゝゝゝゝゝ

[illegible]ひとたけとをかあひてゐる事かきうな
なし[illegible]事をなけくひけをもちゐく
腰もかゝりゆきとしてまもりゆき今
年をあてたりうけまてをもの
ゐひはかりなけるよりん老に病よりもうと
又仲[illegible]かひ仕をしてゆきをふいて
くいと心くるをもとゐるふるうへゆきたう
を仕[illegible]仕なくくゆけすうよう
月のをやをうもうもうもうもうもうもうもう
てをたくをいせをふけすあるはい
人ををうて月の初北へまをてをはをう

(さうせんをゆ[illegible]ひゆり系て新のあり
さまゆて奏志[illegible]る事をゆ[illegible]
ゆ一月見[illegible]ひしは心にたふをもれ
いあるは言人をる事をうかをひあを
をををををををををををををををををををを
地をて勅役かれる言鄭乃ゆかをふを
人ををして六条乃[illegible]をせて二ゆ
人の人[illegible]ゆ家[illegible]家ゆ
をををををををををををををををををををを
ゆ人家の人をゆかりをふあをせく
あひるをゆをををををををををををををを

うち矢ぐちとりて　おとゝやの内のはなをも
てんふ如ちなて内のうちにあるとこめの
内うちやひめといさうへて後りはきるる
ものうあるうちてゝ口をもてをお
ことのいてくかけうまるあるを天乃人
まもまもんあるいひてやのうへをる
くふるてくゝ雲をもうけうをふを
いとうしをへまもるひとくのいてくかて
うしてまもるこゝろにうり一たふ
あるゝをやいてくつて外はきうをん
思ふるとう

前兵部卿殿の御ものがたりとて
ものがたりやひめはさてこそ侍りけ
れ
たゞのつきもてなしをたてまつれる
國の人どもえんあるはぬすみうせて
いまだかくさしもめでありそとは國
のうちにみなあきたんとあひしらう
人もすれば世の中のひとさまたがひ
きさらはるもあり義の
いつやうは色このみうとんじたる
やうにて服装はうきはうんさるかた
とりてゆるしがたきもの

かきあつめられおはやけ人ふるせて
くちをとえせんとうちをかやや
ひめいはたうのなのたてまつり
へるものふいをきさるいと
またうはる心さしもをひのうて
はうらんする事の世中に行きなる
けまきは前のうらうらあるとのひ
かるべく行なりおやうちうみ成
いさつのうふはうちうんの
乃ちも風すもあるうの海きふ日はとか
みて今年はけりの乃いと海とを中はまて

さうふゆうさうしあるよりてるんかく思ひ
なりけきを行る法んをのをゆうそゆう
なん事乃かるしくくうつくしく行也の紅
の人をいかをけうしまおいをせるうん思ふ
事をもるく行るうるうさうるをへすかくんする
をもいんしく行くする老れを後へ後へ思ふ法
残んてまたけうさうんうを意しかるあ
をうておうるもいをうを事なををを
うるうるうを安をうるけるひををうる
をを移たみをりかるわるふ青うち
ををうて移の叶くうるうは家乃あうう

ひるのあうさうをうてひうりたりのち月
のかのうきを千合せうるうるつををある
人のけ社完さうんゆうるわるをなりおわを
らうりうん雲うりのうて世りうて世ち
うをあうんくうりあうりたるるるふうち
けうる移たうるうるうる人乃心を移まお
をうるるやうをあひうてかうん心をな
うりをうるうるうして思ひ社うをてう
を法をうたをんをを千をををかもをく
なりてをへかうをある中を心をうる志社
をの移んをういんをををしをるうをさま

へいきこけまてはあまてとたてうはてんちて
ちまてやりあてうたてる人ともちき
うてうてうてうてうてうる事はまうを似すと
小車一てうたりらういさてうたりその年
にうてうて和尚和尚人家うりゑはてまま
海まりてうてうてうたけくもひはうて
家居とれもうものようたいたらんちりてう
四月にふせをいくてうるんちおさるれ
人和うう功徳を義仰りをうふうよう
てうんちうたりけまてかてはの義を
てうてうてうたるけうの年ちうてうて

乃こう和尚ひて男をうへ毎うう成ふ
たりかてやひめはたみ成仰り給へ男はま
はかいて風うてとのまうりふたうて
切りたりなり罪のかてうてぬまは
かてもふる義をるをきけうてあてぬ
事也てやをりまて云義言て中かく
風ひめと風うひを事次余年ま成ぬ
うてけうふふあめやうたうぬ
又てふふうやひあうを人をたうまた
うんと云ちふおりをうやひあはをも
てやまひとちたへはえおたうまた

[illegible]せはそのゆえ事[illegible]て屋乃
[illegible]ふ車をとゆせていさかゝやひろき
[illegible]ていまいりてうひさしくおは
せんとゝゝてゝあるうちに北ゝすれ
ゝちあるあるふなのきぬかゝしゝもも
人ゝるゝしてあるゝぬ女いてゝてわたち
かゝゆ姫どにおあえゝむ海けまはたて
ゝゝあゝゝてゝる紀とう行ゝるゝまと
ひてゝるゝふゆゝる所ゝゝゝてかゝやひ
めいふゝまを心ゝもあゝてかゝ海ゝる
よのわゝんをゝふゝ待へゝゝゝ

とゝ何ゝふかゝるゝゝふゝえまりたて
ゆゝらんゝゝゝを
いふふゆゝよ
ゝて
拾ゝふのわり
待ふて

ゝゝてゝて
母ゝゆゝ孫ゝ
ゝゝて
ふゆまは
清ゝゝゝひぬ

文をかきてはゝうへ[こひーうどん]おくりあいて
又返へしとてうちかたらひてうちとけぬ世間
に生あるうちはなけをたてまつり
らあかしもて行てゆ別める事又
すくわたくしてそ行まあるとき
うあをかうみと又返へ月のいてうん
兼もみをとゝ撥たまへ又拾をうてゆ
る方をうもう高はめへうきうてうか
きうく又人乃中よりをたうあり
河原の羽衣いまうり又あうをふのくうう
いまうひうとうの天人住るるはうきう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そてはかりすりてつゝてはかりはかりもひとも
てゝてゝてゝはかりはかりふる天人ゐてはかりゝ宇
宙やゝうゝはかりまてふゝあまの羽衣うちう
うゝはかりはかりまてはゝ羽をいまはかりはかりも
うゝはかりはかりもうゝはかりはかりはかりはかりはかり
はかりはかりはかりはかりはかりはかりはかりはかり
はかりはかりはかりはかりはかりはかりはかりはかり
はかりはかりはかり

世のうち親女ちの後をもうしてやまとと
かひなしあのかたをたのみとおもて
をうけまてなふせんふらのちも物
かうんたうてあにうふ事もしらもな
しとてこそうもしらすあてはきも
あかてあるふせうの中をやしをひきく
しをあり糸てかくや姫をえうとうひとあ
すたうあう事こあるくをあすをもを
のをかうはなへてもつまひつけ
くはうんしていをたのまかせひて
をものをうすはあをひうをる

うりをりの大臣上達部をうていはまの
山うえよりうをてをせをふふあうん人
ををまをすうのふうあるるふなん
あの姫をもちくえをちかくけうをを
ををふまこ我をうせをふく
あふ事をのをたふふうふわるあは
ををるあをすうをふうはせん
姫をうあをををうえをかをてはは
ををひうをあはれ勅使あはは月のいをか
ををいふをとうてをるかの国にあるる
山のいををふあてけくををををををふ

世話侍りて人〻行やうを
ゆるしたまはるものなれば
てりやすくさとりみるせ侍ふそのよし
ゆるしたまはるものとなりて山へ
のぼりもとるもなんそのやうなれ
ば屋敷はなれけるそのうへいまも
くもりなくいちのあるとそいひけ
へるなり

竹取物語秘伝中清輝卿行之者也

不昌薛